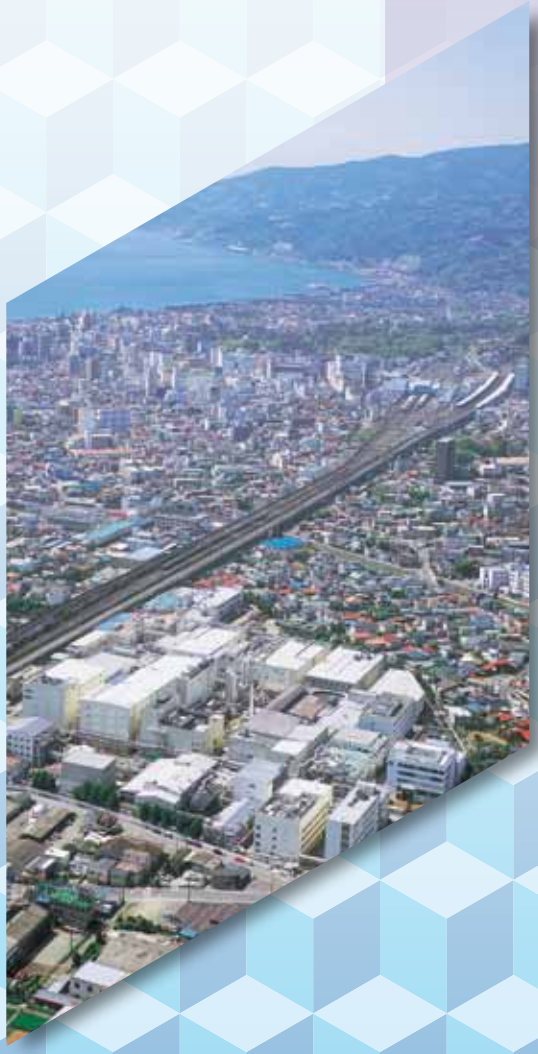
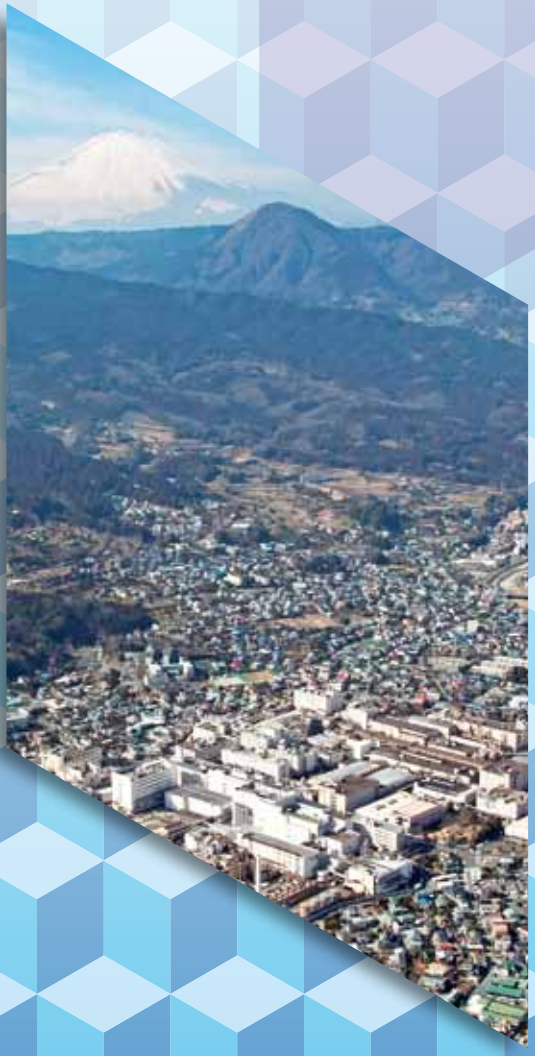
FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルム　神奈川工場

サステナビリティレポート 2015





Odawara / Ashigara

KANAGAWA FACTORY Sustainability Report 2015

ごあいさつ

はじめに

富士フイルム神奈川工場は創業の地であり、昨年80周年を迎えることができました。生産品目は時代の流れと共に変わってきましたが、弊社主力工場として今まで以上に多くの製品を世の中に送り出しております。これも私どもの製品をご利用いただいておりますお客様をはじめ、この神奈川工場での生産活動へのご理解、ご協力をいただいている地域の皆様、そして従業員の努力があってのことと、改めてステークホルダーの皆様へお礼申し上げます。

生産活動

2005 年社名から ' 写真 ' の文字をなくし「富士フイルム株式会社」への変更とほぼ同時に小田原工場と足柄工場を統合し神奈川工場としました。現在の生産品は液晶ディスプレー用偏光板保護フィルム「フジタック」などのフラットパネル用材料を中心に、写真感光材料、記録メディア製品、さらに新規機能性材料など幅広い分野の製品を生産する工場に変化しています。操業以来生産している写真フィルムはデジタル化への転換により年々生産量が減少しておりましたが、一昨年頃からその場で写真がみられるインスタント写真「チェキ」が若者を中心に人気が高まり、現在では全世界で旺盛な需要となり、増産を重ねております。また新規製品として上市した「エクスクリア（透明導電性フィルム）」など高機能性材料のシェア拡大を図ることが今後の経営の最大の課題となっています。

環境保全活動

このように神奈川工場での生産品も時代の要請で大きく変化してきましたが、「地球・人類・企業の持続可能な発展を目指し、企業体質・製品・サービスにおける高い環境品質を実現して、顧客満足を達成する」ことを趣旨とする「富士フイルムグループ グリーンポリシー」を継続することには変わりありません。

これらのポリシーを実現する新たなしくみとして、神奈川工場では、2009年より「安全、環境、品質」の3つのマネジメントシステムを統合して運用する統合マネジメントシステム（IMS）を導入しました。統合運用することで経営環境の変化に対応した重点施策を一丸となって推進する『リスクマネジメント機能』の強化を図るものです。

今後の課題

東日本大震災以降、社会全体で抱える大きな課題の一つとして、エネルギー資源の転換に伴うコストの増大があります。お客様に価値ある機能を適正な価格で提供するためにも、近年のエネルギーコスト上昇は大きな逆風であり乗り越えなければならない課題です。これらに対応するために2013年より全社エネルギー戦略推進委員会活動をスタートさせ神奈川工場でも毎年大きな省エネ成果を上げることができました。2015年以降も発想を転換し、着眼点を変えて更なる省エネに取り組んでいきます。

このように大きく変化する社会環境・経営環境に迅速に対応し、継続的な発展を遂げるには従来のやり方を常に見直し、改善していくサイクルを回す必要があります。地域の皆様をはじめ、社外の皆様と今後も双方向のコミュニケーションを図りながら、更なる改善に繋げたいと考えています。　皆様からのご指摘、ご意見、ご指導を賜れば幸いと存じます。

2015 年 7 月

富士フイルム株式会社
神奈川工場長
金武哲史

目次

ごあいさつ…… 1
神奈川工場の概要・環境負荷…… 2
神奈川事業場方針…… 3
2014～2015 活動のTopics …… 4
環境保全・労働安全衛生
《特集》世界中で大人気になっている
インスタントminiフィルム『チェキ』……5･6
環境保全活動　大気・廃棄物の管理…… 7
水質・PRTR調査結果…… 8
省エネ・炭酸ガス排出量…… 9
地域とのコミュニケーション……10

■編集方針

本レポートは富士フイルム株式会社神奈川工場と当工場敷地内にある関連組織およびグループ会社の環境・安全および地域コミュニケーションについての活動と2014年度における実績を中心に掲載し、私たちの取り組みを読者の皆様にご理解いただくとともに取り組みの更なる向上を目指し、読者の方々とのコミュニケーションを図ることを目的に毎年発行しています。

本年度の特集は、今や韓国や中国・東南アジアだけだなく欧米にも人気が広がるインスタントカメラ「チェキ」についてご紹介しています。

読者の皆様には、巻末にある連絡先までご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

概　　要

神奈川工場の概要

	小田原サイト	足柄サイト
所在地	〒250-0001 神奈川県小田原市扇町2-12-1	〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼210
創立	1938年6月15日	1934年1月20日
生産金額	642 億円	615 億円
敷地面積	110 千㎡	326 千㎡
建物面積	46 千㎡	152 千㎡
延床面積	126 千㎡	443 千㎡
従業員数*	1,124 人	2,344 人
主要製品	・ＷＶフィルム 液晶ディスプレイ用視野角拡大フィルム ・記録メディア コンピューター用バックアップテープ 放送用ビデオテープ　など ・化学薬品 ＷＶフィルム用/写真用/外販用 硝酸銀	・ＴＡＣフィルム 液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム ・写真フィルムと印画紙 一般アマチュアおよびプロフェッショナル写真家用 ・写真感光材料 製版用/医療用/事務用/映画用/産業用 ・体外診断薬および医療機器 ・透明導電性フィルム

*2015年3月現在 サイト内にあるグループ会社の従業員数を含む

神奈川工場マネジメントシステム認証取得年月

	ISO9001	ISO14001	ISO14001 小田原 / 足柄サイト統合	OHSAS18001 ／ 統合マネジメントシステム運用
小田原サイト	1992 年 10 月	1996 年 10 月	2006 年 12 月	2009 年 11 月
足柄サイト	1992 年　9 月	1996 年 12 月	2006 年 12 月	2009 年 11 月

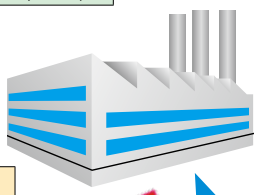
神奈川工場の環境負荷（2014 年度）

エネルギー・井水

	小田原サイト	足柄サイト
電力-買電	22,859 千kWh/年	96,850 千kWh/年
電力-自家発電	39,674 千kWh/年	89,931 千kWh/年
重油	-	21 KL/年
都市ガス	13,514 千Nm³/年	39,285 千Nm³/年
井水・市水	3,561 千m³/年	8,821 千m³/年

主要原材料

	小田原サイト	足柄サイト
ベースフィルム	5,810 t/年	8,745 t/年
銀	240 t/年	144 t/年
鉄	306 t/年	-
ゼラチン	-	439 t/年



原料再生

	小田原サイト	足柄サイト
銀	2.8 t/年	445.4 t/年
溶剤	1,046 t/年	-
ベースフィルム	-	151.0 t/年

大気排出

	小田原サイト	足柄サイト
ＶＯＣ	40.1 t/年	259.1 t/年
CO_2	42.1 千t/年	134.3 千t/年
ＳＯｘ	-	0.3 t/年
ＮＯｘ	24.0 t/年	23.4 t/年
ばいじん	0.0 t/年	0.0 t/年

リユース

	小田原サイト	足柄サイト
プラスチック	31.9 t/年	-

排水量

	小田原サイト	足柄サイト
公共河川	3,535 千m³/年	8,056 千m³/年
下水道	156 千m³/年	1,267 千m³/年

廃棄物量

	小田原サイト	足柄サイト
リサイクル	1,431 t/年	2,685 t/年
直接埋立+単純焼却	4.7 t/年	2.8 t/年

製 品

概　　要

平成２7年度　神奈川事業場方針とスローガン

FUJIFILM

平成 27 年度 神奈川事業場方針

発想を新たにして
「売れる品質」「儲かるコスト」を
「勝てる納期」で　実現しよう！

IMS（安全・環境・品質）スローガン

変化を先取りし、力を結集して
強い個人・強い組織を築き上げる！

平成27年度　神奈川事業場方針

神奈川工場および関連組織・グループ会社を含む神奈川事業場では、創業以来生産し続けているフイルムに代わる新製品を成長軌道に乗せ、富士フイルムの大きな収益源としていくことが経営の最大の課題となっています。

それらを実現するには、お客様のニーズを的確に掴み、高品質な製品を低コストでタイムリーにお届けする必要があります。それを今年度の方針に掲げました。

スローガン

事業場方針を実現する源泉は個人と組織の現場力です。取り巻く環境、自分たちの仲間や職場の変化に気付き、強い個人とコミュニケーションが活発な組織を作ることをスローガンにしました。

「神奈川」事業場方針実現のしくみとして運用する「統合マネジメントシステム（神奈川ＩＭＳ）」

統合マネジメントシステムの運用

神奈川事業場では、ISO9002（1992～）、ISO14001（1996～）、OHSAS18001（2009～）を認証取得し、2009年以降、これら３つのマネジメントシステムを統合マネジメントシステム（IMS）として運用しています。（IMS：Integrated　Management　System）

統合マネジメントシステム運用の狙い

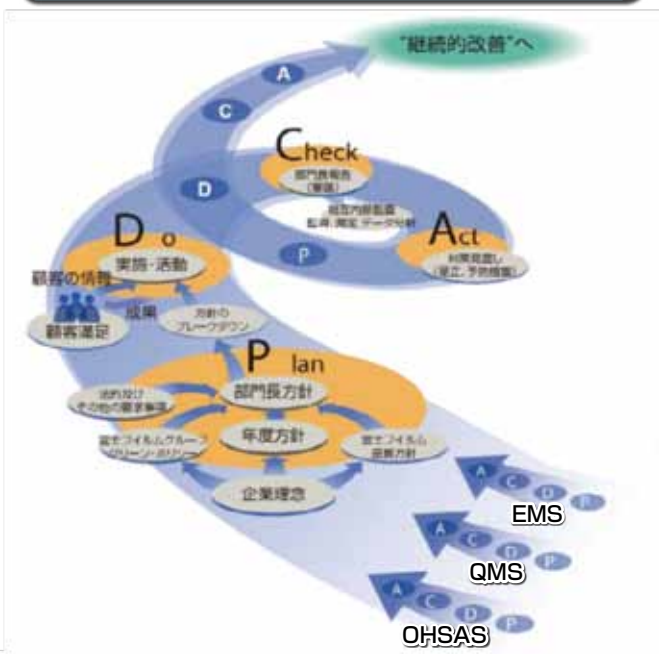
統合マネジメントシステムでは、事業場内の関係会社を含む全部門で統一した事業場方針、スローガンを定め一丸となって業務改善に取り組みます。

統合運用することで、より経営指針と一体となった事業基盤の強化につなげるとともにシンプルで効率的な改善のしくみを実現しています。

統合マネジメントシステムの運用体制

神奈川事業場では方針や重点課題を策定しIMS活動全体を統括するIMS委員会と「安全、環境、品質」のそれぞれの軸で改善活動を推進する専門委員会を設けそれらが連携して、重点課題を推進しています。

経営と一体となった改善活動



神奈川 IMS　運用体制

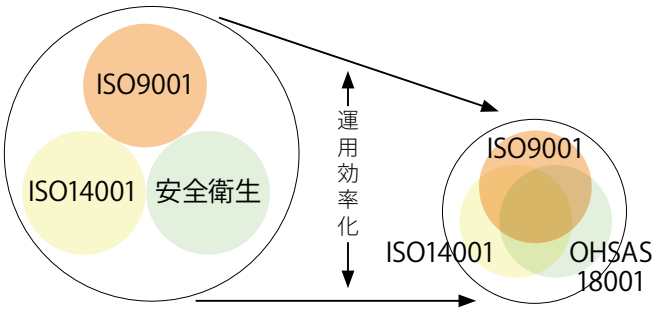
神奈川 IMS 委員会
・神奈川 IMS の最高決議機関
方針、重点課題の決定、マネジメントレビュー

IMS 専門委員会
・IMS 安全委員会
・IMS 環境委員会
・IMS 品質委員会

・３専門委員会を設置
重点課題を３つのMSの観点で課題展開する機関

IMS 各部委員
・事務局からの連絡窓口
各部門 IMS データベース管理者

IMS による運用の効率化

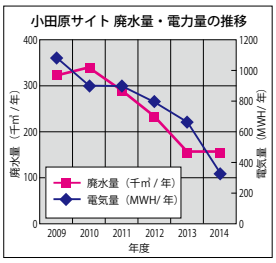


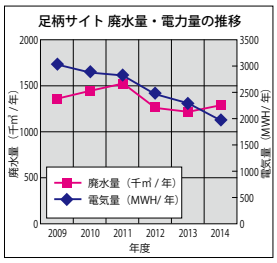
2014 ～ 2015　活動の Topics

環境保全

1．廃水処理のエネルギー削減

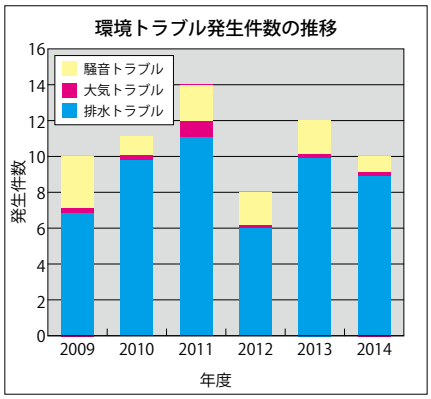
【小田原サイト　廃水処理スケール最適化と間欠処理によるエネルギー削減】
　生産効率化により廃水量が減少したため、廃水処理槽の処理スケールを最適化すると共に常時処理から間欠処理に運転を変更しました。これにより2014 年度は使用電力を約 55%削減できました。
【足柄サイト 廃水一系列化によるエネルギー削減】
　感光材料に含まれている銀を効率的に回収するために、銀を含む廃水とそれ以外の廃水を別々に処理していました。近年の感光材料の生産量減少に伴い、廃水量も減少したことから一系統に統合する改造を 2014 年に実施し、2015 年から一系統化で処理を開始しました。これにより 2015 年度は使用電力を 30% 程度削減できる見込みです。





2．環境トラブル防止活動：環境版リスクアセスメント手法の開発

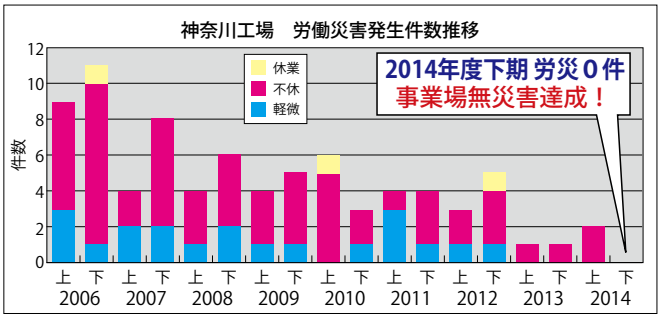
　環境トラブルには化学物質の漏洩、騒音、臭気などがありますが、70%以上が化学物質の漏洩によるものです。タンクや配管は内部から腐食等の老朽化が進むため外観からは漏洩危険源を見つけにくく、また広範にわたる生産設備すべてを精度よく診断することは不可能であることから未然に防ぐことは困難でした。そこで使用する化学物質の種類、使用頻度、使用量等から漏洩した時の危険性を見積もり、効率的な設備診断をおこなう「環境版リスクアセスメント」を開発しました。設備診断には従来からおこなわれている肉厚測定に加え、現場オペレーターの長年の経験や知見も活かして危険源の探索をおこなっていきます。2015 年度はこの手法を工場全体に導入、展開し、漏洩トラブルを未然に防げる体制を築いていきます。



労働安全衛生

1. 災害発生状況の推移：2014年度下期無災害達成

　安全衛生委員会メンバーでの定期的な現場巡視、リスクアセスメントを繰り返すことで潜在する危険源の摘出と対策、危険体感研修等の従業員教育、**5S**活動の展開等の安全衛生活動を推進してきました。このことにより、神奈川事業場の2014年度に発生した労働災害は、2013年度と同件数の不休災害2件に抑えることができました。また2014年度下期には工場ではじめて6ヶ月間無災害も達成することもできました。



2. 危険体感研修：累計1000人達成

　危険に対する感度を高める目的で模擬的に危険を体感してもらう研修を実施しています。内容は、感電・巻き込まれ・転落など合計7種類あります。2012年度から従業員を対象に実施しており、2014年度には約300名が参加しました。（累計では1000人を越えています）
　FFグループ関係会社からの参加希望も多数あり、その活動を拡げていきます。また消防法上の危険物の取り扱いも多いため、危険物の火災、爆発についても体感できる防爆危険体感研修も2015年度から開設しています。

危険体感研修設備
はしごからの転落体感設備

防爆危険体感研修設備
溶剤爆発と粉塵爆発の実験設備と静電気による着火実験設備

3．5S安全巡視：安全確保を目指した5S推進

　神奈川工場全体で安全の向上に繋がる**5S**（整理・整頓・清掃・清潔・躾）に取り組みました。また中央安全委員会メンバーによる**5S**安全巡視をおこない、下記活動も展開しました。
・重大ヒヤリが発生した現場での対策状況確認と再発防止を徹底
・整理・整頓の不備の指摘し更なる改善による**5S**レベルの向上
・ユニークな安全活動を他部門へアピールし横展開を推進

◀重大ヒヤリ発生行程の対策（注意事項の表示）

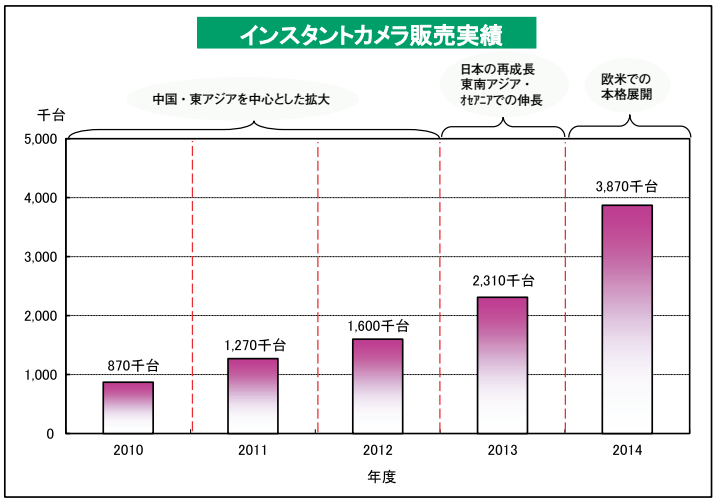
▶不要物の 5S により確保できた通路

◀整理整頓し落下防止の鎖を張った棚

世界中で大人気となっているインスタントｍｉｎｉフィルム（チェキ）

1．インスタントｍｉｎｉフィルム　人気の秘密

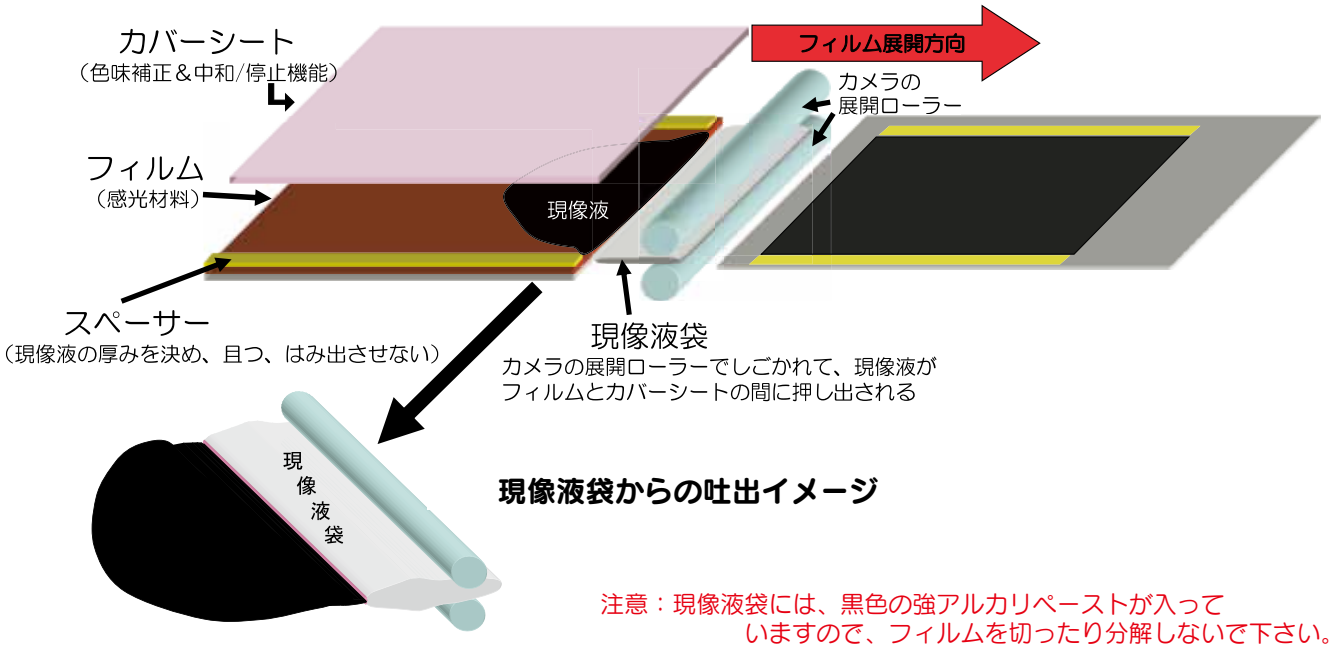
・カメラで写真を取ったその場で、すぐにプリントとしてみる事が出来る
・世界に1枚しかないという希少価値（アイドルの「生チェキ」写真が、雑誌の景品として人気です）
・従来からあった欄外にコメントを書くこと以外に、画像にペンで作画するなどの新しい使い方
このような特色が、日本発の「かわいい」文化＝Cool Japanとあいまって世界各地に伝播し、需要が急拡大しています。



2．オンリーワン商品のインスタントフィルムに秘められた技術

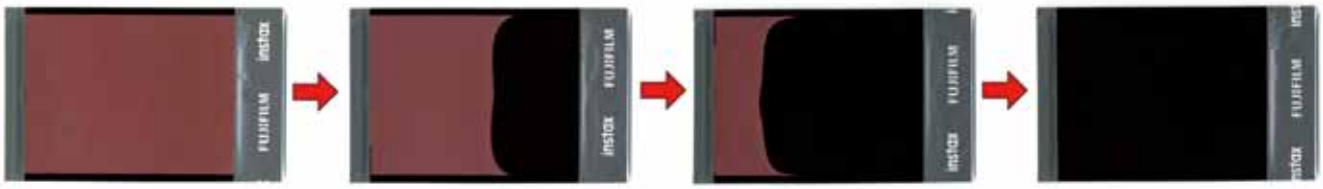
インスタントフィルムの技術的特徴は、撮影と同時に画像を現像する機能をフィルムに有していることです。（フィルムに現像機が同居しているイメージ）

1）現像液の薄層展開を可能にするインスタントフィルムの内部構造（断面図）



現像液袋からの吐出イメージ

注意：現像液袋には、黒色の強アルカリペーストが入っていますので、フィルムを切ったり分解しないで下さい。



未現像　現像開始　現像途中　現像完了

2）現像液袋の液量を高精度で管理

前述のようにフィルムを現像するためには、現像液をフィルムに薄く均等に展開（行き渡らせる）する必要があります。しかし、現像液が少ないと未現像の部分が発生してしまいます。

逆に、現像液を必要以上に袋に入れてしまうと資源の無駄になるばかりでなく余った現像液がフィルムから溢れ出してしまいます。

このため、ｍｉｎｉフィルムでは、現像液袋の目標液量　±　11μLの高精度で管理しています。

※1μL（マイクロリットル）＝0.000001リットル

3．環境負荷軽減への取り込み

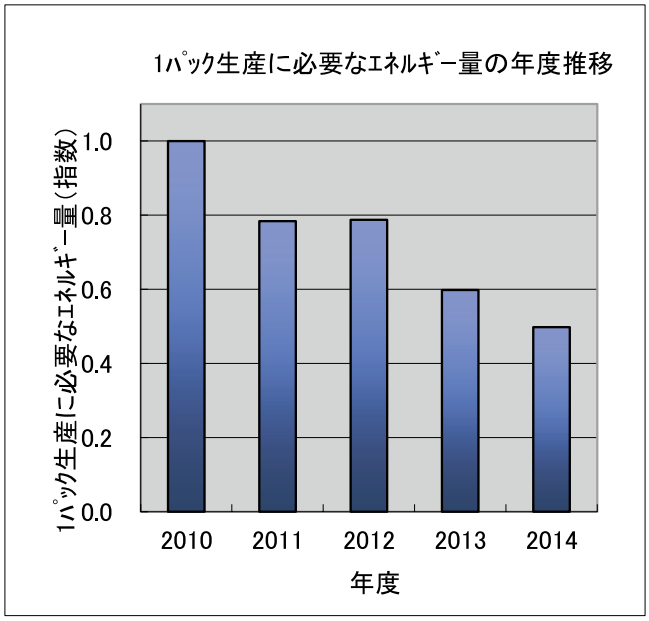
1）使用材料のリサイクル適性向上

インスタントフィルムを構成する部材に過去は金属材料も使用していましたが、本体と同じ樹脂化することを進めてリサイクル適性を向上させました。

2）生産に要するエネルギーの効率

インスタントフィルムを生産するためには、フィルムを構成する原材料の他に電気や蒸気などのエネルギーも使用しています。

数量増によって得られる生産性向上以外にも、スピードアップやロス削減、省エネ空調機の導入などを進めたことにより、インスタントフィルム１パックを生産するのに必要なエネルギー量を2010年に対し約1／2に削減致しました。



4．今後の展開

現在、急拡大する需要に合わせて、生産能力の大規模な増強を図っています。環境にやさしい商品として更なる改善を進めるとともに、世界各地から要望を受けている写真画像の周囲に絵柄キャラクターが入った製品も拡大し、お客様のニーズに応えてまいります。

大気（ばい煙・VOC）

		項目	対象設備	単位	県条例排出基準	工場管理値	2012 年度	2013 年度	2014 年度
小田原サイト	総量規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	6.53	6.53	0.47	0.71	3.04 **
	濃度規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）	ガスタービン	ppm	20	20	15	15	15
			１Ｆ貫流ボイラー	ppm	60	60	31	50	54
			３Ｆ貫流ボイラー	ppm	60	60	休止中	休止中	休止中
足柄サイト	総量規制	ばいじん		kg / h	13.63（総量）	13.00（総量）	0.00006	0.007 *	0.00008
		ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	23.48（総量）	21.20（総量）	3.2	1.4	2.8
	濃度規制	ばいじん	７号ボイラー	mg / Nm³	50	50	１未満	１未満	１未満
		NOx（窒素酸化物）	７号ボイラー	ppm	50	50	31	31	32

総量規制の数値は最高値、濃度規制の数値は平均値です

* 2013 年度は７号ボイラー定期検査のため、小型ボイラ（重油使用）を運転しています。

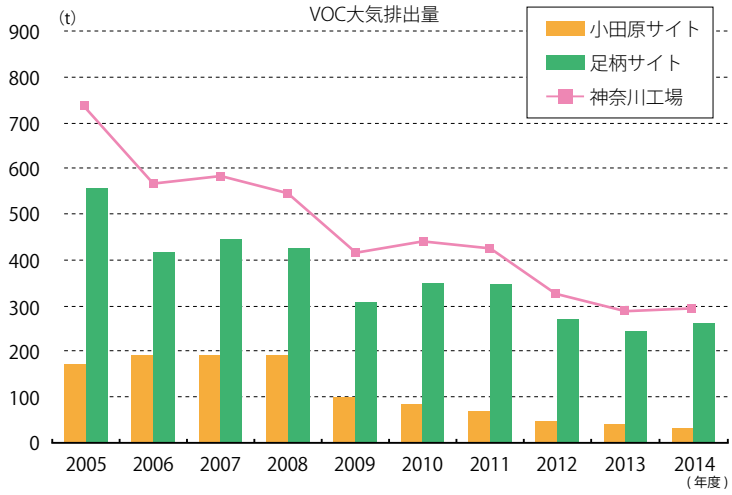
** 小田原サイト総量規制値にガスタービンを追加しました。

VOC 排出濃度規制への対応

小田原サイト 21 施設、足柄サイト 7 施設の排出口での濃度測定を行い、規制値以下であることを確認いたしました。

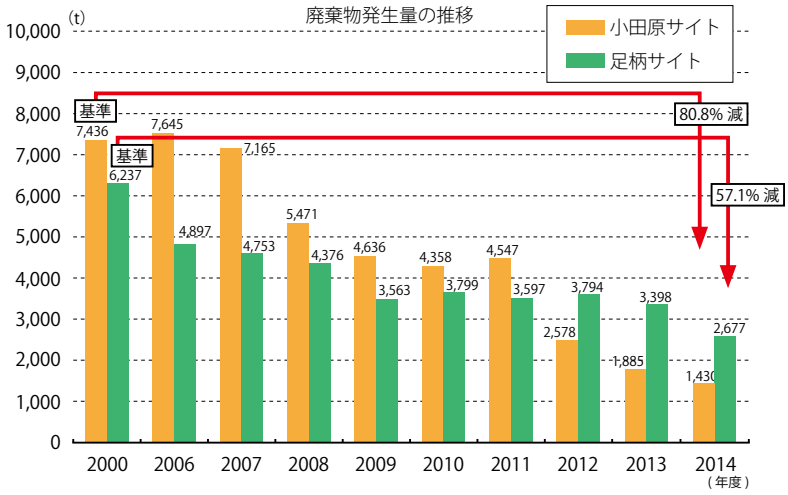
揮発性有機溶剤（VOC）大気排出量の削減

神奈川工場では老朽化設備の更新や工程改善など、ＶＯＣ大気排出量の削減に取り組んでいます。



廃棄物の管理

神奈川工場では廃棄物の発生量削減に継続して取り組んでいます。その結果、2014年度は対2000年度比小田原サイトで80.8%、足柄サイトで57.1%削減することができました。今後も廃棄物の有価物化など更なる削減に向けた取り組みを進めます。



水質

河川放流系

主な項目		法規制値	小田原サイト 県条例値	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2013 年度	小田原サイト 2014 年度	足柄サイト 県条例値	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2013 年度	足柄サイト 2014 年度
水素イオン濃度 (pH)	-	5.8 ～ 8.6	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	7.6	7.6	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	7.2	7.9
生物化学的酸素要求量 (BOD　*1)	mg/L	160	60	50	1 未満	1 未満	25	20	3.7	1 未満
化学的酸素要求量 (COD　*2)	mg/L	160	60	50	1 未満	1 未満	25	20	1 未満	1 未満
浮遊物質量 (SS)	mg/L	200	90	75	1 未満	1 未満	70	50	5 未満	5 未満
大腸菌郡数	個 /cm3	3000	3000	300	10 以下	10 以下	3000	300	1 以下	14
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	mg/L	5	5	4	1 未満	1 未満	5	5	0.5 未満	0.5 未満
銅含有量	mg/L	3	3	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.3	0.05 未満	0.05 未満
亜鉛含有量	mg/L	2	2	1	0.02 未満	0.03	1	0.3	0.1 未満	0.1 未満
溶解性鉄含有量	mg/L	10	10	5	0.05 未満	0.05 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	10	1	0.5	0.02 未満	0.02 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
クロム含有量	mg/L	2	2	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.5	0.2	0.05 未満	0.05 未満	0.5	—	—	—
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.2	0.1	0.002 未満	0.002 未満	0.2	0.16	0.02 未満	0.02 未満
シアン	mg/L	1	1	0.8	0.05 未満	0.05 未満	0.5	0.3	0.05 未満	0.05 未満
ニッケル含有量	mg/L	—	1	0.5	0.05 未満	0.05 未満	1	—	—	—
フェノール類	mg/L	5	0.5	0.2	0.05 未満	0.05 未満	0.05	0.03	0.01 未満	0.01 未満
ふっ素	mg/L	8	8	6	0.1 未満	0.1 未満	8	6	0.2 未満	0.2 未満
カドミウム	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.01 未満	0.01 未満	0.05	0.01	0.01 未満	0.01 未満
鉛	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.05 未満	0.05 未満	0.1	0.06	0.01 未満	0.01 未満
セレン	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.005 未満	0.005 未満	0.1	0.08	0.01 未満	0.01 未満

* 1 . BOD とは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が微生物によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。
* 2 . COD とは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。

測定値は毎年度 10 月度における数値を示しました。

地下水水質

工場内外に、小田原サイトでは9ヶ所、足柄サイトでは16ヶ所、観測井を設置し定期的にモニタリングしています。

主な項目　（単位：mg/L）	法定浄化基準および県条例基準	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2013 年度（測定 9 箇所）	小田原サイト 2014 年度（測定 9 箇所）	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2013 年度（測定 16 箇所）	足柄サイト 2014 年度（測定 16 箇所）
カドミウム	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.005	0.005 未満	0.005 未満
全シアン	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.005 未満）	検出されず（0.005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.1 未満）	検出されず（0.1 未満）
鉛	0.01	0.01	0.005 未満	0.005 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム	0.05	0.05	0.01 未満	0.01 未満	0.01	0.01 未満	0.01 未満
砒素	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
総水銀	0.0005	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満
アルキル水銀	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）
PCB	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.0002 未満	0.0002 未満	0.015	0.0005 未満	0.0005 未満
四塩化炭素	0.002	0.002	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002	0.0002 未満	0.0002 未満
1,1,1,- トリクロロエタン	1	1	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
テトラクロロエチレン	0.01	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
ベンゼン	0.01	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満
セレン	0.01	0.01	0.005 未満	0.005 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	10.0	10.0	6.0	5.6	10.0	2.0	2.0
ふっ素	0.8	0.8	0.1	0.1 未満	0.8	0.2 未満	0.2 未満
ほう酸	1	1	0.1 未満	0.1 未満	1	0.1 未満	0.1 未満

「○○未満」とは検出限界未満を表します。

PRTR 調査結果

PRTR 対象物質・自主管理化学物質データ（2014 年度）

単位：ｔ / 年

	対象物質名	政令指定番号	排出量 大気	排出量 前年との差異	排出量 水域	排出量 土壌	移動量
小田原サイト	アセトニトリル	13	0.2	0.2	0.0	0.0	7.5
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0
	コバルト及びその化合物	132	0.0		0.0	0.0	0.3
	ジクロロメタン	186	2.6	-1.4	0.0	0.0	0.1
	N,N- ジメチルアセトアミド	213	0.2	0.0	0.0	0.0	24.7
	N,N- ジメチルホルムアミド	232	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5
	トルエン	300	0.1	-0.1	0.0	0.0	13.3
	ヒドラジン	333	0.0		0.0	0.0	0.0
	ヒドロキノン	336	0.0		0.0	0.0	0.0
	n- ヘキサン	392	1.5	0.4	0.0	0.0	24.5
	りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	4.3
足柄サイト	アセトニトリル	13	0.2	0.0	0.0	0.0	1.6
	アンチモン及びその化合物	31	0.0		0.0	0.0	0.1
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0
	パラクロロフェノール	121	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
	クロロホルム	127	1.8	-0.2	0.0	0.0	1.5
	ジクロロメタン	186	69.3	-2.7	0.0	0.0	26.5
	セレン及びその化合物	242	0.0		0.0	0.0	0.1
	トルエン	300	0.3	0.2	0.0	0.0	5.9
	砒素及びその無機化合物	332	0.0		0.0	0.0	0.0
	ヒドロキノン	336	0.0		0.0	0.0	0.2
	n- ヘキサン	392	0.8	-0.1	0.0	0.0	3.9
	メチルナフタレン	438	0.2	-0.2	0.0	0.0	0.0
	りん酸トリトリル	460	0.0		0.0	0.0	0.3
	りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	10.2

* PRTR とは環境汚染物質排出移動登録（Pollutant Release and Transfer Register）の略で、化学物質を製造・使用する事業者が自主的に環境への排出量を把握・管理する仕組みのことです。

省エネルギー・CO_2排出量の削減

神奈川工場は2013年度よりエネルギー戦略推進委員会を発足させ、工場をあげて省エネ活動を積極的に行い、CO_2の排出量削減と省エネに取り組みました。

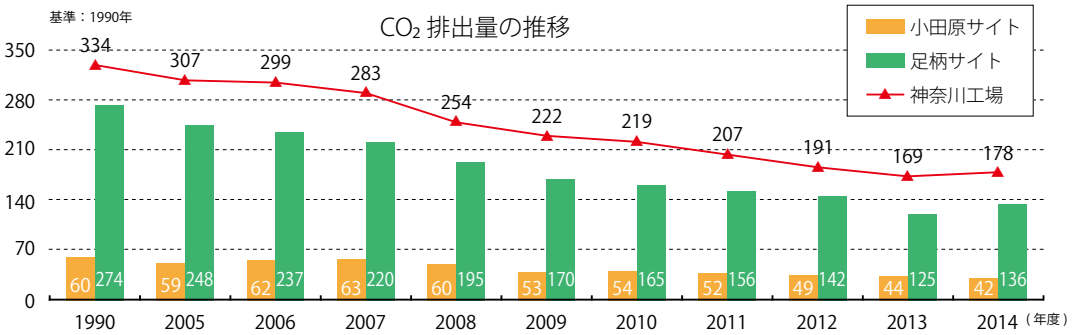
エネルギー供給部門では、高効率機器への更新による効率の改善・変圧器無負荷損削減の省エネを進めてきました。

エネルギー使用部門では、水銀灯のLED化や製造設備の製造条件見直しによる徹底した省エネを進めてきました。

その結果、エネルギーは前年比で1.9%削減しましたが、2014年8月より足柄サイトの電力購入先をＪＸ日鉱日石エネルギー（株）から東京電力（株）へ変更したことによりCO_2排出係数が大きくなり、CO_2排出量は約5.3%増加しました。

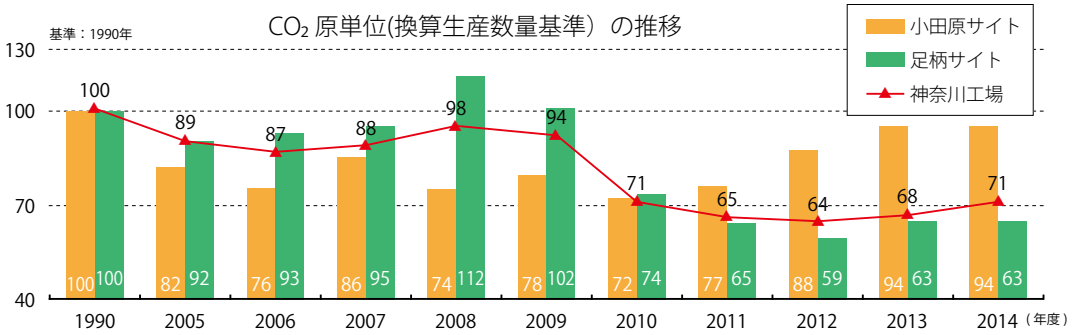
CO_2 排出量の削減

神奈川工場は1990年比　約47%　低減を達成しました。



CO_2 排出原単位の改善

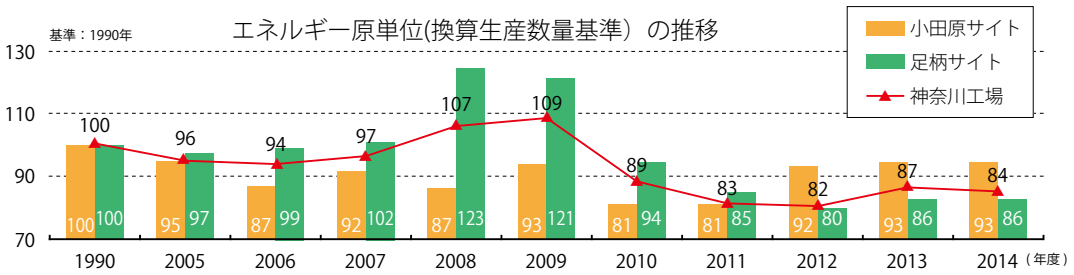
神奈川工場は1990年比　29%　低減を達成しました。



※CO_2排出原単位…製品㎡当たりのCO_2排出量

エネルギー原単位の改善

神奈川工場は1990年比　16%　低減を達成しました。



※エネルギー原単位…製品㎡当たりのエネルギー使用量

地域とのコミュニケーション

従業員の積極的なボランティア活動参加などによる地域との共生、社会への貢献を大切にしています。

清掃活動への参加

「クリーンさかわ」への参加　5月

小田原市自治会連合主催による美化運動に市民や様々なボランティア団体の方々と一緒に参加し酒匂川流域の清掃作業を行っています。

「山王川・久野川」の清掃　6月

小田原市および山王川・久野川流域自治会主権による河川の清掃作業を自治会の方々と一緒に行っています。

「春木径・幸せ径」の草刈　6月・8月

春木径奉仕会主催による両岸土手の草刈を近隣住民の方々・様々なボランティア団体のみなさんと一緒に行っています。

工場周辺の美化清掃活動　6月

工場係長会による美化清掃活動を実施しています。

従業員による地域とのかかわり

「環境フェア」への参加　6月

南足柄市役所で開催される環境フェアに参加し工場の環境活動について見学に訪れる小学生にもわかりやすく説明しています。

自治会環境説明会　11月

神奈川工場周辺の自治会の皆様へ事業場の環境への取り組みを説明し意見交換を行っています。

「小田原市出初式」への参加　1月

新春恒例小田原市消防出初式に参加しています。

「写真教室」の実施　随時

小学校などへ出向き写真の歴史や色の3原色を説明、現像液を使ったプリント作業を実施し子ども達に写真の楽しさを伝えています。

［表紙について］

今回特集のインスタント mini フイルム「チェキ」をモチーフにデザインしました。

◆対象組織◆

富士フイルム神奈川工場　および
当工場敷地内のすべての関連組織、グループ会社が対象

神奈川工場
- イメージング材料生産部
- ファインケミカル生産部
- 事務部

主な関連組織
- アドバンスト　マーキング研究所
- フラットパネルディスプレイ材料生産部
- フラットパネルディスプレイ材料研究所
- 有機合成化学研究所
- 高機能材料研究所
- 記録メディア事業部生産部
- 記録メディア研究所
- 解析技術センター
- 生産技術センター

主なグループ会社
- 富士フイルムフォトマニュファクチャリング（株）
- 富士フイルムメディアマニュファクチャリング（株）
- 富士フイルムオプトマテリアルズ（株）
- 富士フイルムファインケミカルズ（株）平塚工場小田原分室
- 富士フイルムビジネスエキスパート（株）
- 富士フイルムエンジニアリング（株）

FUJIFILM
Value from Innovation
富士フイルム株式会社

神奈川工場
小田原サイト
〒 250-0001　神奈川県小田原市扇町 2-12-1

足柄サイト
〒 250-0193　神奈川県南足柄市中沼 210

■参考にしたガイドライン
環境省 「環境報告ガイドライン
～持続可能な社会を目指して（2007年度版）」
GRI 「サステナビリティ･リポーティング･ガイドライン2006」

環境省 「環境会計ガイドライン（2005年度版）」

■環境データ対象期間
2014年度（2014年4月～2015年3月）

本レポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願い致します。
富士フイルム　神奈川工場　事務部　環境安全グループ
TEL：0465（73）6090
FAX：0465（73）6909

発行　2015年7月　　次回発行予定　2016年7月